

## Y02c 小学生の7割は月の満ち欠けの理由を知らない 小4～6年のアンケート結果より

飯田毅（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）、高橋淳（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）、縣秀彦（国立天文台）

茨城県の同一市内小学校4校で、4年から6年までの児童733名を対象として、天文分野に関する理解度の調査を行った。月が満ち欠けする理由を問う設問では、現行学習指導要領で必修としていないため正答率は33%にすぎなかった。しかし、4年生時に発展学習として学んでいたある小学校5年生の正答率は70%と高い値を示し、4年生でも月の満ち欠けについてある程度認識できることを示唆している。また、恒星の日周運動についての設問では、学習済みの5・6年生における1時間後の位置の正答率は61%で、このうち1日後の位置も正しく答えた児童は19%と極めて少なかった。これは、現行の観察が数時間内で終結するスタイルになっていることに原因があると予想される。さらに、各種天体の距離や大きさを比較する設問では、完全正答率が数%であり、宇宙の広がりや構造の認識は低かった。このようなことをふまえ、小学生にとって身近な天体である月を題材として、興味・関心を喚起・持続させ、発達段階に応じた宇宙観を養うことのできる発展学習プログラムを提案したい。